

卒業生に

贈る
言葉面白くなき世を
面白く松山義則
総長

ご卒業のときをむかえました。およろこびを申し上げます。人の生涯は季節のようにうつりかわり、また旅のように考えることができますが、わたくしたちの一生はそれぞれの自己を一貫して維持しながら、春のように成長する芽ばえの時期から、夏の躍動する若者のとき、そして静かな秋の深みをもつ中年、さらに冬にたとえられる老年の時代をむかえていくこととなります。わたくしたち人間の生涯は、自分という核を不変のままに保持しつつ、常に変化し移行しています。

卒業生のみなさんは、幼年のころ、児童の時期、そして青年時代という大切な日々を家庭や友人、小学校

から大学までの学生生活をすごし、新しい季節に向かって、まだまだ見ぬ社会に立ち向かって旅立とうとしています。これからの人生はいうまでもなく喜怒哀楽にかこまれた多彩な日々であると思いますし、楽しいこともあれば苦しいこともありましょう。いまから自分の将来を適確に予断することはむずかしいことです。が、明るい目標を立て、その実現に向かって着実な歩みを踏み出さねばなりません。しかしその歩みは常に軽やかな平坦な道ではないことも事実です。

幕末、波乱にみちた短命の生涯を終えた高杉晋作は「面白くなき世を面白くすみなすものは心なりけり」とうたいました。当時、攘夷か開国か、馬関にやぶれ、奇兵隊を組織し、各藩間の離合集散するめまぐるしいなかで、命をかける日々を送りました。晋作にとっては一日一日は面白くなき世と嘆ぜざるを得なかったと思います。われわれが遭遇するこれからの境遇も面白くなき世もあらうと思います。生きることに自らを投入すればするほど、環境からの重圧は強く、自分の思いや自由は制約されます。そのなかにあつて、面白くなき世を面白くすみなしていくのは、自分の心であると晋作は悟ったのだと思います。真実に生き、難関をのりこえ、苦悩のなかにあつた人であつたればこそ、面白くなき世を面白く生きようという気構えをもつたと考えられます。ご卒業のおよろこびの今日このごろ、希望とよろこびにみたされておられることでしょうが、わたくしたち人間の明日の日はまことに不透明であり、決して樂觀できるものではありません。いづどのようなことに直面するか、思いもかけない不倖がおとずれ、おぞましい不運に立ちふさがれ、どうしても自分がこのような運命にみまわれ、重く暗い日をすごし、長い闇のトンネルのなかを歩まねばならないかと嘆息されることもあるかと思ひます。人生において対処せざるを得ない面白くなき世を面白くすみなす心、その勇気を堅持する気構えをもちたいと思ひます。

ポーランドに生まれ、第二次世界大戦のとき、アウシュビッツで毒殺されたマキシミリアン・コルベ神父

の生涯についてはご存知のところであると思います。フランシスコ会の司祭として一九三〇年から六年間、長崎に修道院、神学校を建設し、清貧に甘んじて伝道活動に従事しました。その頃は日本が大戦に向う前夜であり、彼は官憲の監視のもとにありました。一九四一年、ポーランドでは、ユダヤ人とともに聖職者に対する迫害は厳しくなり、彼はパビアク収容所に収監され、のちアウシュビッツに移送されました。そして苛酷な生活を強いられ、重労働の責め苦に遭いました。さらに夏に収監されていた房で脱走者が出た理由で、一〇名の者が餓死刑に処せられることになりました。死刑のなかで最も残酷な刑でありました。幸いにもコルベは指名からはずれましたが、ポーランド軍人の一軍曹が指名され、妻子との離別を嘆いているのを知り、その身代りを志願し、地下の牢獄に収容されました。衣服は脱がされ人間の尊厳を剝奪された屈辱と死の前にされたなかに収容者は怒号と狂気にあふれました。コルベはここにあつて人びとを励まし、力ついてもか細くなった声で祈り、また聖歌を歌いました。十四日を経て生存しているものは四人、病弱なコルベは泰然として座し祈りつづけました。看守兵は毒殺を決意し、薬物を注射して殺害したのです。彼は自ら腕を出したと伝えられています。キリシタン殉教の地、長崎での生活体験が彼を支えていたのかもしれない。四十七歳の生涯でした（萩原俊彦『マキシミリアン・コルベ神父』近現代世界の平和思想、一九九六年に詳し）。アウシュビッツにみられるように、人間はときに思想や信条、信仰の名において、また、憎悪や憤怒のゆえに、人の世の常でない行動に出るものです。このような非情な非条理な事態は希有のことと考えねばなりません。が、わたくしどもの一生に生じないという保証はありません。これからの長いみなさんの生涯において、願わしくなくにしても波乱にとむ危機的状况に出くわすことはあります。このようなときに、コルベ神父のような生き方、事に対する処し方ができるのは特別の人、神からの不思議な力を受けた人であつたからかもしれません。しかし、わたくしたちの周辺でも、人の為に生き、自分を犠牲にして生きようとする人び

とに会うことがあります。船旅を楽しんでいた一家がありました。そこに思いもかけぬ災難がまちかまえていたのです。たまたま浅瀬に船底を乗りあげた強い衝撃が、甲板にいた子どもを海に投げ出そうとしました。傍にいた母親はその子どもをひきもどし助けようとしてバランスを失い、自らが海に投げ出されてしまいました。子どもは母親の強い手の力で甲板にのこり助かりました。これはあるいは瞬間の出来事であり、とっさの判断であったかもしれません。しかしその愛と犠牲と献身はコルベ神父に通じるものがあります。大震災のような災害時に、これに似た事実が報告されていますし、数多くの若い人たちが被災者のためにボランティアとして現場にかけつけました。

人間はその欲望の充足のためにあらゆる智慧をはたかし、徒党を組み、敵を殲滅しつくすまで憎悪や怨念の思いと作為にやかれます。しかし一方、人びとは互に理解しあい助けあって、命あるものを尊重しようという思いをもっています。人類は食物連鎖のなかにとり込まれ、他の生命を自らのものとしなければならぬ宿命に生きていますが、その宿命を直視しながらも、なおすべての異民族、異文化との共存、またつぎの世代の人びととの協調、そして地上のあらゆる存在との共生をはたしていなければ地球そのものの安泰はないでしょう。よく言われるように有限な地球上の資源の継続的開発の実現と、地球環境の保全のための人類的協力がいま大きく叫ばれていることも当然のことと思えます。地球の温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、砂漠化などは地球史の壊滅につながりかねません。

われわれはいま不思議な生命をあたえられて生きています。有限な自己が他者や地球環境のなかで果すべき責任を思い、面白くない世を意義あるものとする願い、また自ら楽しむ思いをもちたいと願います。同志社の創立者、新島先生が願われた自己献身を心にする生き方があらゆる世界の人びと、地球上の生物、存在との共生の基盤に求められていると思います。

卒業生に
贈る
言葉

「智徳の劇場」 への門出を祝う



岩山太次郎
大学長

学位を受領され、同志社大学を卒業される皆さんに心よりお祝いの言葉を申し上げます。おめでとうございます。

学位の授与式、卒業式のことを英語でコメントメントということはご存知のところでもあります。物事を始めることであります。このコトバの語幹の動詞コメントスはラテン語のコミニティアーレに由来します。英語のイニシエーションもこれを語源にしたコトバです。イニシエーションは文化人類学で言うところの通過儀礼で、人がある状態から次の状態に移るときに行われる通過の儀式で、これを経験してはじめて、その後

遭遇することの本質を感得し、それを体现することができるようになる儀式であります。人生の節目節目に象徴的に行われる儀式であります。

人生の節目のイニシエーションはこれまで文学作品の格好の題材になってまいりました。そのなかのひとつに、アメリカの小説家ウィリアム・フォークナーの『行け、モーセ』（一九四二年刊）という小説があります。フォークナーはノーベル文学賞も受賞したアメリカを代表する作家のひとつであります。

『行け、モーセ』という小説は関連する七つの短篇小説からなりたっているもので、そのなかにミシシッピ川デルタ地域に住んでいたアイザック・マクキャスリン、通称アイクという八〇歳近くになった老人を中心とした荒野にまつわる物語があります。アイクはマクキャスリン家の三代目の世嗣でありましたが、二一歳のとき、その家が所有していた広大な土地を受け継ぐことを拒否しました。拒否した理由は、私有していた土地は白人が所有すべきものではなく、その大地は太古から自然と神のもので、先住民もそれを管理していたにすぎないものだと考えたからであります。その上、マクキャスリン家は奴隷も私的財産として所有していました。アイクはこのように白人が所有してはならないものを所有してきた先祖の罪を贖うために、家の財産相続を拒否して、隠者の生活を送ろうとしました。

アイクが罪の贖いを決心するきっかけになったのにはイニシエーションがありました。彼がまだ一〇歳代のとき、時代は一八七〇年代から八〇年代にかけてのことですが、デルタ地域は神秘的な大森林におおわれた大自然そのものでした。その大森林で牡鹿を初めて仕留めたとき、アイクはその森に住むサム・ファーズという老人から、仕留めた鹿の血を額に塗る儀式を受けました（昔の人たち）。これがイニシエーション、通過儀礼であります。この儀式を経験してから、アイクは大自然のなかで、森の主ともいえる大熊オールド・ペンとの対決を通して、自然と人間の関係について様々なことを体得したのであります（熊）。サム

が森の主と運命をともしたとき荒野の死を感じたように、アイクはサムの死を通して、原初の大自然は犯すことのできないものであることを感得したのです。

一〇歳代に経験したイニシエーションの儀式から数十年後に、アイクが最後に森を訪れたときは、時代の進展のなかでデルタ地域の大自然はすっかり変貌していました。森には白人により製材会社が建設されていて、材木運搬用の汽車が走るようになっていました。しかしアイクが見たのは時の進展による大自然の変化だけではありませんでした。イニシエーションの儀式をさずけてくれたサム・ファザーズの墓も、狩人仲間のブーンが刺し殺したオールド・ベンが眠る場所も、またオールド・ベンと対決させるためにサムが手なづけた野生の猛犬ライオンが眠る場所も、それらすべては荒野の大自然に還元されてしまっていました。アイクが感じたのは荒野の生命は断たれることなく永劫の循環のなかに脈々として生き続けていることであり、文明と対決している大自然の存在でありました。彼は、文明の価値のみを認める多くの白人たちとは違い、大自然の精神が文明と対決していることを体感しました。アイクが大自然と文明の二つの価値を体感できたのは、先にイニシエーションを経験し、この経験を通して物を体得できる世界に入っていたからであります。通過儀礼を経験しなかったものとは違う体感ができたのであります。それは文明の価値のみを求めて生きる人とは違う体感でありました。

卒業される皆さんが同志社大学で学びとられましたのは、それぞれの専門分野での学識であり、その学識は「キリスト教主義」による自治自立の精神、良心のうえにうちたてられたものであります。同志社大学を卒業されることがゴールでは決してありません。卒業式は皆さんがこれから入られる社会、世界へのイニシエーションであります。私は皆さんがその社会、世界で、文明の価値だけを求めるのではなく、イニシエーションを経験していない人とは違うことを体感され、それを体現されることを期待しています。

一八八四年、明治一七年、休養と募金を兼ねて欧米を訪問しておられた創立者新島襄は、その年の六月の同志社英学校の卒業式には出席できませんでした。そのため新島は遠くイタリアの地より神学課と普通課の卒業生に書状を認めています。そのなかで、新島は卒業式の日が「多年、蛍雪の労を積で青雲の志を遂く栄日」と記し、「智徳の劇場に出て勝利を得る人ならん：前途尚遠くして其任大なり、今よりして其進路を踏み其初任に就くものなれば小心翼翼大謀を乱る勿れ」と書き送りました。

卒業される皆さん、皆さんは同志社大学の卒業式というイニシエーションを経験された方々であります。「青雲の志を抱き」自ら選ばれた「智徳の劇場」で、体得された力を大いに發揮し、同志社大学卒業生としてそれを体现されることを期待しています。

皆さんのご健闘とご健康を祈ります。

卒業生に贈る言葉

卒業生に
贈る
言葉



児玉実英
女子大学長

卒業生の皆さん、この度はおめでとう。

最近「日本の将来推定人口」（厚生省）が発表されましたが、それによると日本の人口は二〇〇七年にピークを迎え、約一億二五〇万人になるそうです。つまり大かたの皆さん方が元氣盛んな三十歳前後までは、日本の人口は増加し続けます。そのころの老年人口（六五歳以上）は全体の二〇％だそうです。ところがその後日本の人口はだんだん減少し、残念なことですが、二〇五〇年には、つまり大かたの皆さんが七五歳ころ、一億五〇万人になってしまうそうです。そのときの老年人口比率は逆に増え、皆さんを含めて三二・三

%となるそうです。これは大変な数字です。これで皆さん方は、はたして暮らしていけるのかどうか。

しかしこの予想は、はズれるかもしれません。というのは厚生省の推定人口は、五年ごとに発表されるのですが、過去においては毎回、実勢と大きくくい違ってきたからです。だから今回は、きびしい目に条件設定したのだそうですが、それでもびったり当たらないでしょう。未来の予想は、そのように、はズれるから人生がおもしろいのです。

とはいっても、大体の傾向は変わらないでしょう。つまり皆さん方の世代の情熱も理性もあり、働き盛りの三十歳前後にいたるまで、日本の人口は増え続け、その後は減少していく。そして老年比率が高くなっていく。主な原因は、晩婚化と少子化ということです。もし皆さん方が少しがんばって、できるだけ早く結婚し、たくさん子どもをもつてくだされば、この予想は見事にはズれます。厚生省には申しわけないのですが、この予想がはズれることを、ひそかに期待し、皆さんに少しがんばってほしいと願っている人が、私を含め日本にはかなりいるのではないかと思います。もつともそのためには、子育てのための環境をもつと整えていく必要があるでしょう。

しかし今日皆さん方に私が送りたい主たるメッセージは、そのことではありません。未来にはわびしい面だけでなく、明るい面もたくさんあるということです。

たとえば技術革新にともない、家庭にいながら全世界を相手にかなり多くの仕事ができるようになるでしょう。交通輸送手段はさらにスピード化され、今、日本で開発中のテクノスパーライナーという船は、間もなく五〇ノットで海上を走ります。それにともない物流のあり方、つまりロジスティックスもずいぶん変わるでしょう。最近の『ニューズウィーク』誌によると、キャンサー・キラー・P53という遺伝子が発見され、ガン制覇にまた一歩大きく前進したようです。生活にゆとりができ、ボランティア活動が増え、家族の

きずなが大切にされ、より暖かい人間関係が生まれてくるでしょう。

私の皆さんに送りたいメッセージは、卒業後どんなことがあっても、明るい希望をもち続けていただきたいということです。パンドラという女性は、人類が生まれた大昔、蓋を開けてはいけないという箱をゼウスからプレゼントされ人間界に降りてきたのですが、開けてみたくて、とうとう蓋をとったところ、その箱の中に封じこめられていたあらゆる災いがとび出し、この世に満ちみちてしまった。しかし最後に、箱の隅っこに「希望」が残っていた、とギリシャ神話は語っています。今後皆さん方は、公私ともども、いろいろな艱難に遭遇することでしょう。しかし最後まで明るい希望は捨てないでください。そして、よりよい未来を切り拓いていってください。これが私のメッセージです。

ではどうしたら希望をもち続けられるのか。それについて少し話を続けます。一つの答は信じることであり、信仰であります。しかしこれは信じるか信じないかの問題ですので、私の次の答を申しあげます。それは、精神的な若さを保ち続けるということです。ではどうしたら若さを保ち続けられるのか。具体的に申しあげましょう。いろいろな見えるわけですが、私の周囲を見回したり、私自身の経験に基づいて、今は三つのことを申しあげます。

一つは、本から学び人から学べ、ということです。卒業後大かたの皆さんは本やプリント資料を読む時間が少なくなるでしょう。そのかわり人と接することが多くなるでしょう。人をよく観察し、人からよく話を聞き、生きた人から多くのことを学んでください。とくに、その土地、その分野の一流の人にあつて話を聞くことをおすすめします。本から学び人から学び、常に正確で新しい知識を身につけることが、若さを保つ一つの秘訣です。

二番目に、時間をうまく使う達人になれ、ということです。これから皆さんは、なにかにつけて忙しくな

ります。時間を上手に使うかどうか、皆さん方の将来に大きな違いをもたらします。「光陰矢の如し」とか“Time is money”とかいいますが、時間をうまく使い、仕事を効率よくこなしながら、スポーツを楽しみ、家庭を大切にし、よい食事をとると、心も身体も若々しく保つことができます。

三番目に、人とともに生きることを考えよ、ということ です。友人とともに、親子とともに、勤務先の人たちとともに、とくに現代においては、世界の人たちとともに生きていくことが大切な時代です。自分一人だけ身勝手に生きていけない時代なのです。とりわけ地球規模の大きな課題、たとえば人口爆発、食糧・資源、環境保全などの問題に対応するには、多地域、多領域間の協力が必要です。自分の主張は大いにしてもよいが、他人の立場も充分理解しなければならないのです。

人の意見をあまり聞かず、一人よがり、同じことをくり返す態度は、老化の現れであります。異った立場の意見を聞き入れ、柔軟にいきいきと対応していくのは、若さを保つ秘訣です。若さを保ち続けられ、常に希望をもち続けることができます。

日本は、いま、低成長期に入りつつあります。この時代に求められる人間像は、社会構造の中にできたひずみを発見し、解決策を示す能力、新しいものを産み出す創造力、そしてたくましい行動力をもった人たちです。

どうか皆さん、いつまでも若々しく、新島襄先生の「デキトウフキ 傀儡不羈」ということばを忘れず、豊かな創造性と、提案力と、行動力を持ち、希望をもって、明るい未来社会を築きあげていってください。

* 「デキトウフキ 傀儡不羈」にすぐれて志が大きく傑出し、才気が並はずれて、なにものにも常規をもって束縛され難いこと。